



鏡小との交流学習でつながる

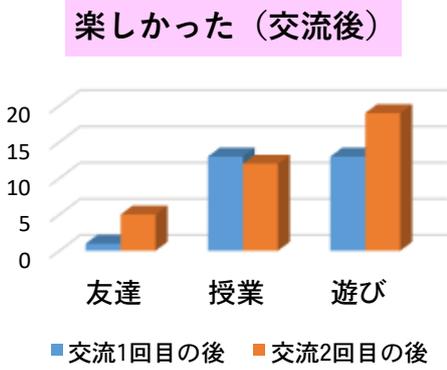


十一月一日（金）に、鏡小学校との交流学習をおこないました。今回も、子供たちはそれぞれ三時間の授業を体験しました。国語や算数、道徳、体育、外国語などの教科のほかに、車いす体験を含んだ授業もありました。

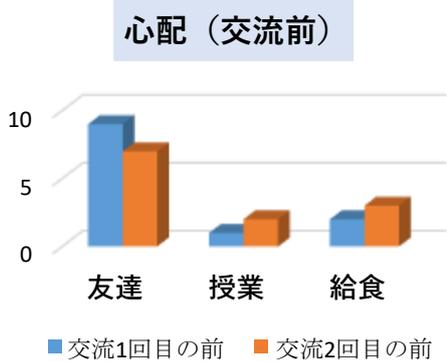
交流後の子供たちの感想を読むと、「授業が楽しかった」と書いていた子供が十二人とほぼ半数いました。最も多く書かれていたことは、「昼休みに皆

で遊んだことが楽しかった」「遊ぼう。』と声をかけてくれたことがうれしかった」など遊びに関することで、約八割の子供が書いていました【図1】。そのおかげで、交流前に「なかよくできるか心配」と友達に関する心配をしていた子供が七人いましたが【図2】、交流後に友達のことで困ったという子供は一人もいませんでした【図3】。

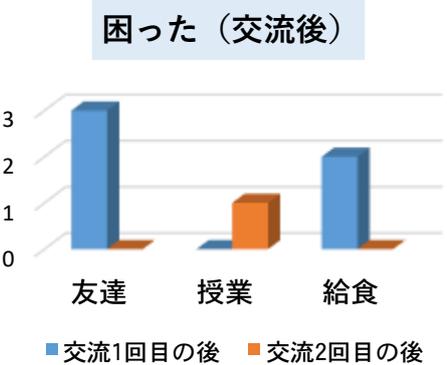
子供達にとって、授業や遊びなど同じ空間で活動することで、不安感がなくなり、心のつながりが広がっていくのだとあらためて感じました。なかでも、大人数ならではの醍醐味を感じられる遊びや体育は、本校の子供たちもその楽しさをたくさん感じる事ができたようです。



【図 1】



【図 2】



【図 3】

雅楽をとおして人とつながる

十一月十八日（月）に、雅楽鑑賞会を行いました。これは、鏡町在住の天理雅鏡会の中村さんから、「今年で閉校となる鏡西部小学校の子供たちに、雅楽の演奏をプレゼントしたい」というご提案をいただき、実現したものです。子供たちは、お正月に神社で耳にする音楽や映画のテーマ曲など「あっ、知ってる」と、楽しそうに聞いていました。日本の伝統的な音楽を目の前で聞くことができ、ゆったりとした幸せな時間が流れました。



後日、子供たちが書いたお礼の手紙を読むと、プレゼントしていただいたのは、演奏だけではないことに気付きました。『ぼくは、ありがとうと言いたかったことがあります。ぼくたちのために来てくださったことです。』鑑賞会をおして、そこに込められた思いやりに子供たちが気付くことができたことも、ありがたいプレゼントでした。